

令和7年度
雲南市
特色あるふるさと教育事例集



体感する



調べる



対話する



実行する

令和8年3月

令和7年度 特色あるふるさと教育事例集

1	大東小学校	4年	総合的な学習の時間	赤川ホテルについて知ろう
2	西小学校	4年	総合的な学習の時間	「めざせコウノトリ博士」 ～なぜコウノトリは雲南市を選んだのか考えよう～
3	佐世小学校	5年	総合的な学習の時間	米プロジェクト
4	阿用小学校	6年	総合的な学習の時間 国語	平和学習 ～過去の事例から学ぶ～
5	海潮小学校	3・4年	総合的な学習の時間	米作りの学習
6	加茂小学校	4年	社会科	残したいもの、伝えたいもの
7	木次小学校	3年	総合的な学習の時間	ヤマタノオロチ伝説 ～わたしたちの市のじまん～
8	斐伊小学校	5年	総合的な学習の時間	食応援プロジェクト
9	寺領小学校	3年	総合的な学習の時間	寺領の食探検隊
10	西日登小学校	1・2年	生活科	西日登をたんけんしよう！
11	三刀屋小学校	6年	総合的な学習の時間	平和について考えよう
12	鍋山小学校	3・4年	総合的な学習の時間	ともに生きる ～だれもが生き生きと過ごせるまちをめざして～
13	吉田小学校	5・6年	総合的な学習の時間	吉田の町おこし隊
14	田井小学校	5・6年	総合的な学習の時間	吉田発 炭物語
15	掛合小学校	2年	生活科	掛合町たんけん
16	大東中学校	1年	総合的な学習の時間	雲南市探究学習
17	加茂中学校	3年	総合的な学習の時間	3年間のまとめ MSU発信
18	木次中学校	1年	総合的な学習の時間	地域（ふるさと）探訪
19	三刀屋中学校	3年	総合的な学習の時間	三中ハッピープロジェクト ～持続可能な地域社会のために行動しよう～
20	吉田中学校	全学年	総合的な学習の時間	吉田の芸能を体験しよう
21	掛合中学校	3年	総合的な学習の時間	町おこしイベント 「つながれ！KAKEYA！ ～笑顔の花を咲かせよう～」

ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立大東小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
4	総合的な学習 の時間	赤川ホタルについて知ろう	「赤川」 「赤川ほたる保存会 松田勉さん」
ねらい		赤川ホタルについて調べる活動を通して、地域の環境や地域の人の思いについて考える。	

1 取組の概要

探究的な学びの授業実践

赤川ホタルの学習を中心に行う4年生において、ホタルを題材とした「探究的な学びの3サイクル」を展開した。

探究的な学びの3サイクル

探究的な学びのサイクル	実施時期	各サイクルの単元の「学習課題」
第1サイクル	5~7月	「ホタルってどんな生きもの？」(18時間)
第2サイクル	9~10月	「なぜ赤川にはホタルがたくさんいるの？」(14時間)
第3サイクル	10~11月	「ホタルの住める赤川を守る作戦を考えて伝えよう！」(18時間)

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

「赤川にホタルがたくさんいることは当たり前ではない」という視点を持ち、ホタルを守り育ててきた地域の人の存在に気付くことで、自分たちも守り育てる活動に関わりたいという意欲を高める展開を考えた。

(学力育成の視点から)

上記の「探究的な学びの3サイクル」に基づき課題解決的な学習を心がけた。

3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

ホタルを守り育てる活動に自分たちも関わったことにより、ふるさとへの誇りやこれからも地域の自然を守っていきたいという意欲の高まりがみられた。

(学力育成の視点から)

課題解決的な学習を通して、ホタルに対する知識が増えたばかりでなく、思考力や判断力、学びに向かう力の高まりがみられた。


4 課題や今後の展望

地域の「赤川ほたる保存会」の皆さんと連携を深め、子どもたちも含めた地域一体となった自然保護活動になっていくようにしていきたい。



+

令和7年度 ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立西小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
4	総合的な時間	「めざせコウノトリ博士」 ～なぜコウノトリは雲南市を 選んだのか考えよう～	<ul style="list-style-type: none"> ・三瓶自然館学芸員 ・兵庫県立コウノトリ郷公園
ねらい		コウノトリが西小周辺を選んでやって来た理由を根拠に基づいて考え、西小周辺の自然環境への理解と愛着を深める。	
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 営巣を続けているコウノトリの生い立ちや、移動場所を調べ、西小学校校区へやって来た(営巣した)歴史や、調べてわかったことや考えたことをまとめ、発信する。 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コウノトリは全国各地や遠く韓国まで旅をしているが、最終的な生息場所として西小校区を選び、何年も続けて営巣している。それは自然の豊かさ、えさとなる生き物の豊富さが理由として考えられる。その事実の知り、西小の自然環境のすばらしさを知り、さらにコウノトリへの愛着とふるさとへの誇りを高めた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本やインターネットなどを使い、資料を読み取る、写真を使ってまとめるなど、相手にわかりやすい表現方法を工夫した。 <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コウノトリの旅の様子を調べることを通して、「たくさんの場所を渡り歩いたのに、ここを選んでくれたのは、えさがたくさんあるからだと思う。」「これからもずっとコウノトリが営巣してくれる場所であるように、守っていきたい。」という思いを壁新聞にまとめて発信した。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちが調べたことをまとめたり発信したりする際に、国語の学習とも関連付けながら、文章で相手によりわかりやすく伝えられるよう、表現の仕方を工夫した。 			
			
<p>↑ (発表練習を三瓶自然館学芸員さんに見てもらいアドバイスを受ける。)</p>			
<p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題を解決する探究的な学習の進め方 			

ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立佐世小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5	総合的な学習の時間	米プロジェクト	米作りの工夫を学ぶ(地域の米作り農家、JA農業普及員) より縄作り(錦織琢朗、岡田伸、川島朝子) 収穫した米を使って味噌づくりをする。(じねんにみそ: 田中恭子)
ねらい	学校近くの田んぼで田植えや稲刈り等の体験をとおして、お米作りをする方の工夫や苦勞を学んだり、地域の方の温かさに触れたりすることで、佐世地域への愛着を高める。		
<p>1 取組の概要</p> <p>(1) 小学校近くの稲作農家で稲の種まきの様子を見学する。</p> <p>(2) 稲作農家の方やJAの方に指導してもらいながら田植え体験を行う。</p> <p>(3) 地域の方に教えてもらいながらよりよい体験を行う。</p> <p>(4) 稲作農家の方やJAの方に指導してもらいながら稲刈り体験を行う。</p> <p>(5) 稲作体験で学習したことを、学習発表会で発表する。</p> <p>(6) 収穫祭(おにぎり、みそ汁づくり、調べて分かったことを発表する。)を行う。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>○地域の方と触れ合いながら田植えやよりよい、稲刈りの体験をすることで、地域の方の温かさや佐世地域のよさに気づき、大切にしていこうとする態度を養う。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>○米作りについての体験をとおして学んだことや米作りの歴史や加工品、品種について調べたことなどをグループごとにパワーポイントにまとめる活動をとおして必要な情報を集めたり選んだりし、まとめる力を高める。</p> <p>○調べたことを劇にして発表することで、相手意識をもって話したり表現方法を工夫したりする等表現力の向上をめざす。</p> <p>3 児童に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>○佐世地域での米作りに関わっておられる農家の方やJAの方の米作りへの思いを学ぶことで、ふるさとへの愛着が高まった。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>○グループで調べたことを分かりやすく表そうと工夫する姿が見られた。</p> <p>○劇で発表する活動を通して、聞く人に向けて分かりやすく伝えるようにしようとする意識を高めることができた。</p> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>○米作りについての工夫や苦勞を中心に学んだが、それだけでなく良いところや魅力などに気づける場を設けると良かった。農業に関心を持てるような取り組みを今後は考えていきたい。</p>			



ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立阿用小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
6	総合・国語	平和学習（国語と合科） ～過去の事例から学ぶ～	大東遺族会、広島平和記念公園、 保護者 他
ねらい		戦争が身近なところにもあったことを知ることを通して、「戦争と平和」をより自分事として捉え考えられるようにする。	
<p>1 取組の概要</p> <p>平和学習の一環としての取組。国語科の「ヒロシマのうた」と関連させながら学習を進めた。現代の子どもたちにとって、戦争というと「遠い昔の出来事」「広島や長崎の出来事」など、どこか実生活とかけ離れた出来事と捉えがち。そこで、昨年度行った戦没者遺族会の方のお話や平和記念公園の見学、そして国語科の学習と関連させながら学習を行い、戦争をより身近に感じ自分事として考えられるようにした。</p> <p>学習のまとめでは、学習を通して感じたことや考えたことなどを劇にし、保護者などを含めた全校児童の前で発表した。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>平和学習の調査の中に「身近な地域」という視点を設定し、ふるさと雲南・阿用に目を向けることができるようにした。</p> <p>地域を「誇りに思う」ことを最終的なねらいとし、地域の人から教えてもらったり地域に出かけて調査したりしたが、十分な時間を確保することができず、誇りを感じるまでには至らなかったかもしれない。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>劇を作成し演技を磨いていく中で、自ら課題を設定し、学び合いながら課題を解決していく過程を重視した。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たに「戦争と平和」という視点で、地域の素材や人材を見たり感じたりすることができるようになったこと。 ○保護者や地域に発信する経験を通して、結び付きを実感することができたこと。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を設定し解決しようとする力が身につけてきたこと。 ○劇を演じるではなく、相手に伝えるという新たな視点で課題をつくり解決していく体験ができたこと。 ○最後までやり遂げる体験をしたこと。 <p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心を「阿用」から「雲南」「島根」と広げることで、より広い視野をもって学習に取り組めるようになってほしいと願っている。 			

ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立海潮小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3・4	総合的な学習 の時間	米作りの学習	海潮交流センターの方々
ねらい	地域の米作り体験を通して、ふるさとの自然や産業への理解を深め、 地域への愛着を育てる		

1 取組の概要

(1) 事前学習

米づくりの工程や地域の農業の特色について調べ学習を行い、年間の活動への見通しを持つ。

(2) 田植え体験

地域の方の指導のもと、実際に田植えを行い、手作業による植え付けの大変さや工夫を学ぶ。

(3) 田の管理体験（田車押し、案山子作り）

田車押しや案山子作りを体験し、稲の育成には継続的な管理が必要であることを理解する。

(4) 稲刈り・脱穀体験

収穫から脱穀までの作業を体験し、米が食卓に届くまでの工程を実感する。

(5) まとめ・ありがとうの会

収穫した米を調理し、地域の方々を招いて「ありがとうの会」を実施し、学びや感謝の気持ちを伝える。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

(1) 地域の「ひと」との関わりを通して、ふるさとへの愛着を育てる

米作りを支える地域の方々との直接的な交流を通して、ふるさとは自分たちの生活を支えてくれている人がいることに気付かせることを意図した。単なる体験活動にとどまらず、人とのつながりを実感させることで、地域への親しみや愛着を育成することをねらいとした。



地域の方と田植え体験をしました。

（学力育成の視点から）

(2) 地域の「もの・こと（米作り）」を通して、誇りと貢献意欲を高める

地域の主要な産業である米作りを体験的に学ぶことで、ふるさとの価値や特色を理解させることを意図した。また、自分たちも活動の一端を担う経験を通して、将来ふるさとに関わり、支えていこうとする貢献意欲や誇りを育てることを目指した。



地域の方を招き、「ありがとうの会」を開きました。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

(1) ふるさとへの愛着の高まり

児童のふり返りから、「地域の方がやさしく教えてくれてうれしかった」「また一緒に米作りをしたい」といった記述が見られた。体験や交流を通して、地域の人や自然を身近に感じ、ふるさとへの親しみや愛着が高まった様子がうかがえる。

(2) ふるさとへの誇りや関わろうとする意識の芽生え

「米作りは大変だけどすごい仕事だと思った」、「自分たちの地域のお米を大切にしていきたい」などの記述から、地域のよさや価値に気づき、それを大切にしようとする気持ちや将来も地域に関わりたいという意識の芽生えが見られた。

(学力育成の視点から)

(1) 体験と知識を結び付けて理解する力の向上

事前に調べた米作りの工程と、実際の体験活動を結び付けながら学習する姿が見られた。田植えや稲刈りなどの経験を通して、教科書や資料で学んだ内容を具体的に理解することができた。

(2) まとめ・表現する力の向上

ふり返りや「ありがとうの会」に向けた準備を通して、活動で学んだことを整理し、自分の言葉で伝えようとする姿が見られた。体験をもとに考えをまとめ、相手に分かりやすく伝える力の伸長がうかがえた。

4 課題や今後の展望

来年度は高学年が複式学級である。今年度まで活用できた教育財産を記録保存し、隔年となっても地域との連携を切らないようにする。

ふるさと教育 取組事例



学校名	雲南市立加茂小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
4	社会科	残したいもの、伝えたいもの	神原神社獅子舞保存会
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統文化「神原神社獅子舞」のすばらしさを知り、関心をもつ。 ・学習を通して、ふるさとの良さに気づくことができる。 	
<p>1 取り組みの概要</p> <p>①自分たちの住んでいる地域に伝わる神原神社獅子舞について、写真から気づいたことや疑問を整理し、学習問題を作る。</p> <p>②神原神社獅子舞の歴史について聞く。</p> <p>③実際に神原神社獅子舞を鑑賞する。</p> <p>④鑑賞を通して得た気付きや新たな疑問を共有する。</p> <p>⑤神原神社獅子舞が抱える課題について聞く。</p> <p>⑥聞いたお話から、神原神社獅子舞のために自分たちにできることを話し合う。</p> <p>⑦神原神社獅子舞をPRするための新聞・ポスターを作製する。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p style="text-align: center;">神原神社獅子舞の学習をすることで、神原神社獅子舞への愛着や誇りをもつこと、そして、自分たちができることを考え行動していくことができるよう、以下の点を意識し学習を計画した。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>① 地域の伝統や文化との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の教材を取り上げ、鑑賞や体験をすることで興味や関心をもつことができるようにした。また、実際に舞を観たり、道具を触ったりすることで、神原神社獅子舞の魅力やすばらしさを感じることができるようにした。 <p>② 講師の方々との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神原神社獅子舞保存会の皆さんにお話を聞かせてもらったことで、神原神社獅子舞を愛し、後世に残していこうとする思いや現在抱えている課題などに触れることができるようにした。 <p>(学力育成の視点から)</p> <p>① 地域の課題を自分事とし、主体的に学習する姿勢を培う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加茂町の人口推移や神原神社獅子舞保存会の皆さんのお話から、若い担い手が減少しているという課題に気づき、受け継ぎ未来に残すために子どもたち自身ができることは何か考えることができるようにした。 <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神原神社獅子舞を通して地域の伝統や文化にふれ、神原神社獅子舞保存会の方の工夫や努力を知り、地域の伝統や文化のすばらしさを感じるとともに、これからも残していきたいという心情が育った。 			

4 課題や今後の展望



- ・学習を展開する中で、神原神社獅子舞保存会に市や県が協力しているという関係についてまとめる際、提示する資料の精選ができていなかったため、授業時間を越してしまうことが多くあった。そのため、市や県との関係が分かりやすいような資料を精選し、整理して提示する必要がある。



ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立木次小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な学習 の時間	ヤマタノオロチ伝説 ～わたしたちの市のじまん～	ヤマタノオロチ伝説の伝承地 観光ガイド
ねらい		ヤマタノオロチ伝説について調べることを通して、ふるさとに愛着や誇りをもつ心を養う。	
<p>1 取組の概要</p> <p>(1) 課題設定 雲南市のじまんについて話し合い、雲南市にはヤマタノオロチ伝説の伝承地がたくさんあることに気づき、探求したい課題を設定する。</p> <p>(2) 情報収集 パンフレット、本、インターネット等を活用し、ヤマタノオロチ伝説について知り、ゆかりのある伝承地について調べる。観光ガイドさんにヤマタノオロチ伝承地ツアーをしてもらいながら見学する。</p> <p>(3) 整理・分析 調べた情報を整理し、どの情報をまとめるのかを決める。</p> <p>(4) まとめ・表現 ヤマタノオロチ伝説について地域の人や他学年に知ってもらうというめあてをもち、調べたことを劇やダンス、歌など教科横断的に伝える。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>雲南市には、ヤマタノオロチ伝説にゆかりのある地が数多くあることをパンフレットや地域のHPなどのインターネット、ヤマタノオロチ伝説の絵本や紙芝居などを通して調べ学習を行った。観光ガイドさんとのヤマタノオロチツアーでは、ヤマタノオロチ伝説を継承していくための記念碑などが数多くあることに気づき、地域全体でふるさとの歴史を繋いでいる様子が分かった。ツアーや調べ学習で学んだことを地域や他学年に劇を通して伝えようとしたことで、さらに関心が高まり、地域への愛着をもつことへとつながった。</p> <p>また、学力育成の視点では、実際に見学に行く前に、事前の学習として小グループで情報収集したり、自分が気になった伝承地について整理してまとめたりした。見学では、事前に学習したパンフレットを持参しながら伝承地を巡り、絵本の様子と実際の様子を比較しながら学習を深められるようにした。児童が話し合いながら調べたことを整理したり、友達にわかりやすく伝えるためにまとめて表現し、自分たちで協力してできたことはとてもよい経験になった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</p> <p>まとめの活動や振り返りの様子から、雲南市にはヤマタノオロチ伝説の伝承地がたくさんあることを知り、これからも大切にしていきたいと感じた児童が多く見られた。児童から自分たちが調べたことを、ぜひたくさんの人に雲南の伝説を伝えたいという思いを強く持っており、その思いを劇やヤマタノオロチとの戦い場面の激しいダンス、力強い歌で表現することができた。</p> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>今回は学んだことを劇、ダンス、歌で表現した。表現したい理由として「雲南市の伝説をもっとたくさんの人に知ってほしい」という思いがあった。その思いを大切に、表現の方法をより幅広く、地域全体にも拡大できるようパンフレットやチラシなども考えていきたい。</p>			

ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立斐伊小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5	総合	食応援プロジェクト	地域の農業従事者の方 JAの方、地域ボランティア
ねらい		米作りについて体験的に学ぶ活動を通して、農業の良さや食に関わる課題を自分の生活とつなげながら見出し、解決に向けて自分にできることを考え、実践することができるようにする。	
<p>1 取組の概要</p> <p>(1) 米作りを体験する。 (2) 米や米作りについて調べる。 (3) 食の課題から、自分たちにできることを考える。 (4) 学習したことを新聞にまとめる。 (5) 米作りでお世話になった方を呼んで収穫祭を開催し、学んだことを発表する。</p> <div style="text-align: right;">  </div>			
<p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米作り体験を通して、地域の方と出会い、ふるさとへの愛着を高めた。 ・お米のPR活動を通して、地域で作ったお米は、他の地域の方から見てとても価値のあるものであるということを知り、ふるさとへの誇りをもつことができた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことについて、相手意識をもって、まとめることができる力を育てる。 ・学んだことを発表する場を通して、児童の表現力を高める。 			
<p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米のお世話をされている方が、高温や水不足などの困難な状況でも、努力や工夫で課題を解決される姿を知り、尊敬の念をもつことができた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班で協力しながら、情報カードをもとにして、学んだことを新聞にまとめ、地域の方に伝えることができた。 			
<p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動が暑い時期にあるため、熱中症アラートの状況によっては、活動ができない可能性もあった。この単元においては、活動を重要視しているため、柔軟な対応を考える必要がある。 ・昔ながらの体験も大事ではあるが、どんどんと変化している新しい米作りについても、もっと知識を深めていくと、児童の視野が広がると考える。 <div style="text-align: right;">  </div>			

ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立寺領小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な学習 の時間	寺領の食探検隊	学校葡萄園 奥出雲葡萄園 日登牧場 木次乳業 地域の方
ねらい		ぶどう栽培の体験や、地域の食のプロフェッショナルの方の話を聞いたり、見学をしたりする活動を通して、ふるさとの食に興味をもち、ふるさとに愛着をもてるようにする。	

1 取組の概要

- 1) 学校のぶどうの栽培をする。
- 2) 奥出雲葡萄園、日登牧場、木次乳業の見学をする。
- 3) 収穫したぶどうをどうするか計画を立て、全校児童に配ったり、自分たちで味わったりする。
- 4) 残りの冷凍保存したぶどうの加工の仕方を調べ、調理し、試食をする。
- 5) 見学等で分かったことをパワーポイントにまとめたり、学習発表会で発表したりする。
- 6) 1年間の学習を振り返り、学習したことをグループごとにまとめる。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・地域の食や農業・酪農、それに携わる人と関わる際に、「なぜ寺領なのか」という視点を持たせることで、寺領だからこその理由や良さに気付けるようにする。
- ・ぶどう栽培の意欲を高め、おいしいぶどうを全校のみんなに食べもらいたいという貢献意欲に繋げるため、地域の方から栽培方法を教わったり、収穫後の計画を話し合っ



(学力育成の視点から)

- ・学習の導入部分で「ひと・もの・こと」を体験や資料などで活用することで、児童がそれぞれの解決したい疑問をもつことに繋げ、その後の見学や活動において疑問を解決しようとする探究的な学びの力を高める。
- ・ぶどうの栽培活動において、地域の方から教わったことやぶどう園見学で知ったことを、自分たちが育てるぶどうをどのように世話をするか話し合うための視点として活用することで、視点を明確にして話し合う力を高める。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

寺領についての興味の高まりや、誇るべき食があることを認識した様子が見られた。「寺領にはすてきなものがある」という意識をもって活動することができた。そうした意識が、意欲的に発表会で伝える様子にも表れていた。また、地域の生産者さんへの尊敬の気持ちも表れていた。



（学力育成の視点から）

ぶどうの種類や育て方、ぶどうがかかる病気、寺領で育てている牛の特徴、牛乳のおいしさのひみつなど、自分で疑問に思ったことについて課題意識をもって学ぶことができた。ぶどうの育て方や、収穫した後にどうするかなど、児童が調べたり話し合ったりして学習を進めることができた。学習全体を通して「寺領の食」について学んだことを今後の学習に役立てようという意欲をもった。

4 課題や今後の展望

豊かな地域資源を活用する際に、児童の実態に合わせながら、児童の願いを大切にして、学習資源の精選や学習材の多面的な見方ができる学習展開を模索していきたい。

令和7年度 ふるさと教育 取組事例

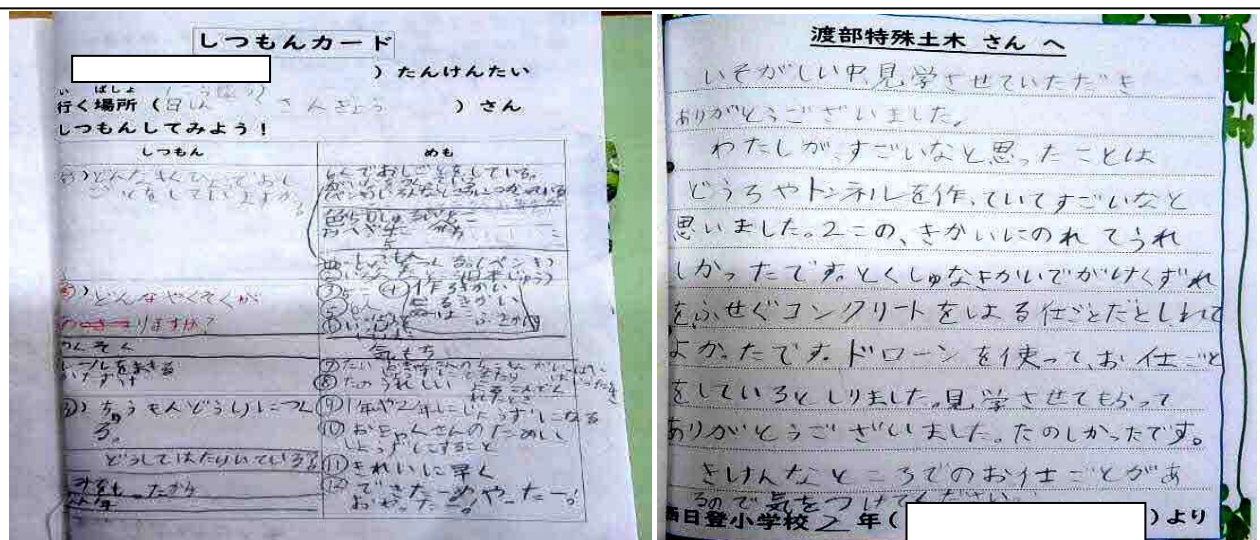
学校名	雲南市立西日登小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1・2	生活	西日登をたんけんしよう!	地域住民 (地域で働く人々)
ねらい	西日登地区を中心に、地域にある場所やそこで暮らす人や働く人について知り、自分たちの生活とのつながりや人々の思いに気づくとともに、その場所や人々に親しみや愛着をもち、適切に接したり、安全に生活したりしようとする事ができる。		
<p>1 取組の概要</p> <p>1) お店や会社、施設、名所 (公園、神社、お寺等) について町探検で訪問する。</p> <p>2) 分かったことや、そこで働く「ひと」の思いを作文 (感想やお礼の手紙) にまとめる。</p> <p>3) 見つけた「まちのすてき」を学習発表会で発表する。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>1) 「ふるさとのよさ」を伝える場の設定 自分たちが見つけたことや分かったこと、そこで働く「ひと」の思いを作文にまとめるとともに、「ふるさとのよさ」を伝える場として、にしっ子発表会で発表することで、ふるさとへの愛着や誇りを高めることができるようにする。</p> <p>2) 「ひと」「もの」に意図的に関わらせる 低学年として、まずは地域を知ることが必要であると考え、知っている「もの」について見学したり、「ひと」と関わる機会を作ったりすることで、「ふるさとのよさ」を実感的に捉えることができるようにする。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>1) 「ふるさとのよさ」に気づき、学ぶ意欲の向上を目指す 西日登のまちについてより知ることで、この地域のよさ、すばらしさへの理解を深める。</p> <p>2) 子どもたちの表現力の向上をめざす 地域で働く「ひと」との対話を通して、自分の分かったことや聞きたいことを伝えることができるようにする。(話し合いやインタビューなどの活動) また、分かったことや思ったことを、国語科の学習と関連付けながら作文にまとめたり、まとめたことをもとに劇を作って地域や保護者に発表したりする活動 (台本作り、小道具づくり、ダンス等) を設定することで、自分の思いを表現できるようにする。</p> <p>3) 「ふるさとのよさ」を発信する方法の工夫 聞いた話や見て分かったことの中から、伝えたい内容を吟味して作文にまとめることができるようにする。また、地域への発信方法として学習発表会を案内し、探検を通して感じた「ふるさとのよさ」を伝えることができるようにする。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容 (どのような力が身に付いたか等)</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>1) 学習後の作文 (感想やお礼の手紙) にまとめた記述の中から、初めて知った驚きやお家の人や地域の方に知って欲しいことを話し合い、それらを「ふるさとのよさ」として認識し、地域への興味・関心をもつ子どもが増えた。</p> <p>2) 出会った人、行った場所、分かったことなどについて、学校の他の教職員や家庭でも話す姿が見られた。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>1) 地域で働く「ひと」へのインタビューで、話の流れに沿って質問したり、目を見て話を聞いたり、大事なことをワークシートにメモしたりするなど、話すこと・聞くことの能力の向上につ</p>			

ながった。



- 2) お礼の手紙を書く際は、相手意識をもって作文を書く力が育ってきた。自分たちの気づきや喜びだけでなく、町探検でお世話になった方達への感謝の気持ちや地域に対する思いをしっかりと表現することができた。
- 3) 次の町探検を楽しみにしたり、進んで質問したりするなど、主体的に地域について知ろうとする姿が見られた。

4 課題や今後の展望

- 1) 児童数も20名を下回る現状の中で、これまで校内で行ってきた学習発表会のあり方も変わろうとしている。今年度は、地域の「ふるさと祭り」に共催する形で、学習の成果を発表することが出来たが、来年度からは、このような形での継続が難しくなってくる。ふるさと学習をテーマとしたこれまでの発表の仕方も含め検討し、今後、どのような成果発表の場を確保していくかが喫緊の課題である。
- 2) 地域で働く「ひと」として、商店や郵便局、駅、交番、公共施設等、生活科の教科書に出てくるような探検場所が学校周辺になかなかないのが本地域の現状である。今年度は、地域コーディネーターからの情報をもとに、訪問先を選定しながら充実した探検ができたが、徒歩で片道20分の移動を要する場所やスクールバスでないと行けない場所もあったため、特に猛暑や雨天の際の児童の安全や健康（体力面）での配慮であったり、学習時間の確保や訪問日の調整やバスの乗り降りの場所の確認であったり、様々な面で細やかな事前の準備が必要だった。また、訪問先の方の高齢化も進んでいるため、若い世代の方も含めて地域の教育資源の発掘が課題となっている。



ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立三刀屋小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
6	総合的な学習 の時間	平和について考えよう	地域の人、歴史、社会
ねらい		平和のために自分ができることを課題とし、平和の大切さ、戦争の恐ろしさを伝えることができる。	
<p>1 取組の概要</p> <p>① 永井隆博士の生き方や人柄、功績を調べるために、永井隆記念館と生い立ちの家を見学した。</p> <p>② 雲南市遺族会の方、piece of piece島根教師の会の方による話を聞いて、島根における戦争の実態を学んだ。</p> <p>③ 調べたことをもとに、国語の学習活動において平和作文を書いたり、姉妹校である長崎市立山里小学校に紹介したりした。</p> <p>④ 学習発表会で三刀屋太鼓による「平和を」という曲を演奏するために、地域の方に指導していただき、練習に取り組んだ。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦争は遠く離れた地で起こったことではなく、身近な場所でも、多くの人がつらい思いをしていたり、戦争の影響を受けていたりしたことをもたせる。また、平和を求めて死の間際まで活動を続けた永井博士の生き方から、ふるさとへの誇り、平和を願う心をもつことができるようにする。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が学んだことを発信するために、情報を整理して適切な方法でまとめたり、自分の考えを表現したりできるようにする。 <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習後の感想から、平和の大切さ、自分にできることを考える児童が増えた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な場所に見学に行ったり、講師の方と触れ合ったりする中で、自ら質問したり、わかりやすく考えを伝えたりすることが増えた。 <p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> 姉妹校である長崎市の山里小学校との交流事業の在り方について、検討したい。 			
			

ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立鍋山小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3・4	総合	ともに生きる ～だれもが生き生きと 過ごせるまちをめざして～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の高齢者 ・ ちょんてごスタッフ (地域在住の医療従事者中心のボランティア) ・ 鍋山交流センター
ねらい		地域に住む高齢者との関りを通して、地域への愛着を深めるとともに地域の一員として自分にできることを考える。	
<p>1 取組の概要</p> <p>(1) 4年生の「今年度も参加したい」という思いから始まった。</p> <p>(2) ちょんてごカフェへ参加【1回目】</p> <p>(3) 第1回の反省と参加者へのインタビューを生かした、第2回交流会の立案。</p> <p>(4) ちょんてごカフェへ参加【2回目】</p> <p>(5) 第2回の反省と参加者へのインタビューを生かした、第3回交流会の立案。</p> <p>(6) ちょんてごカフェへ参加【3回目】</p> <p>(7) 1年間の反省と次年度への見通しをもつ。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>今年度も中学年は、地域の交流センターで行われている「ちょんてごカフェ」に参加し、高齢者との交流を行った。</p> <p>(1) 地域への愛着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鍋山小学校に通っている児童の多くは、祖父母と同居して生活していることもあり、そのため、身近な存在である地域の高齢者との交流を行い、地域への愛着を感じられるように、この活動へ参加した。 ・ 高齢者との交流を通して、高齢者の思いや悩みを聞き、それらを交流活動に取り入れていくという視点で、自己の振り返りを行った。 <p>(2) 貢献意欲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動前インタビューを行い、話し合いの根拠とすることで、高齢者との交流を通して、相手の立場に立った交流計画や3学期のお手紙(以下で詳しく紹介)で、相手の立場に立った手紙の内容が多く見られた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流活動において、少人数グループで時間をかけて関わることで、相手の気持ちを察したり、相手に伝わる説明の仕方やコミュニケーションの取り方について考えたりすることができるようにした。 ・ 参加者の方の意見をもとに、児童主体で相手の立場で課題を整理し、工夫・改善をすることができるようにした。 <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>「地域の方を楽しんでもらえる活動は何か」「どのように関わるとよいか」などを事前に考え、計画、準備をして行うようにした。行った活動には、『鍋山小学校紹介』『トランプ』『手遊び』『ジェスチャーゲーム』『ボッチャ』『ビンゴ』『クロスワードパズル』等があった。これらは、「楽しそうだから」「前にやったことがあるから」といった理由で、活動内容を決められたものだった。しかし、高齢者との交流やインタビューを通して、好きなこと、どんな活動が良いか、最近困っていること等を聞いて参考にしたこと、自分たちの活動の改善点を出したうえで話し合いをしたことで、「腰が痛い人もいるけど、みんなで楽しめるスポーツだから、ボッチャをするのが良い</p>			

と思う。」「1人暮らしで寂しいと言っている人がいた。みんなでわいわいできるから、ビンゴはどうか。」「ルールが分からない人のために、見本を作って説明すれば誰でも楽しめるよ。」など、より深く相手のことを考えて、活動内容を決めることができたようになった。

これは、地域の人の思いにそった活動内容であり、「相手の立場に立って考える力」の育成につながった。

また、地域の高齢者という身近な人々との関わりを通して、「地域の実態」や「高齢者のために活動したい」という地域貢献意欲の育成にもつながったと考えている。

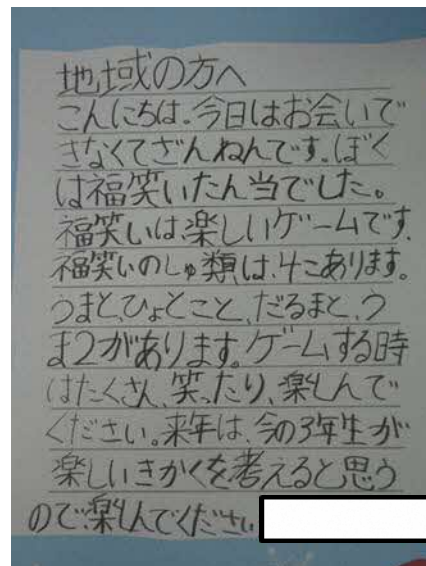
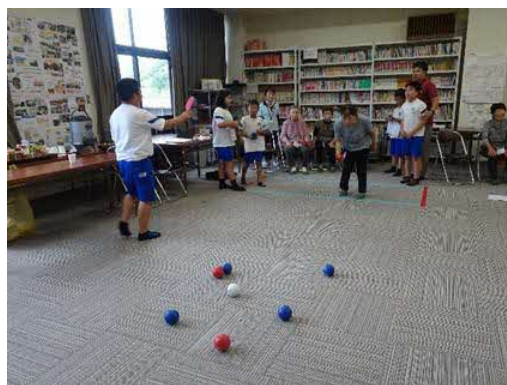
(学力育成の視点から)

高齢者の方との交流においてコミュニケーションは必要不可欠である。しかし、耳の不自由な方や記憶力の低下によりうまくコミュニケーションがとりづらい高齢者の方もおられた。その時には、自ら筆談で説明をしたり、「一緒にしましょう。」と進んで話しかけたりする積極的な姿も多く見られた。

また、3学期の交流が雪の影響により実施できなかった際に、会えなかった高齢者の方へ向けての手紙を書いた。そこで、以前、高齢者の方が、小さい字は見えにくいことや、カタカナや漢字を忘れてしまっていると話していたことを覚えており、なるべく濃く大きく書こうとする児童、ひらがなで書いた方がよいかを教師に尋ねる児童もいるなど、相手の立場にたって、既習事項を使いながら、文字を書く児童がいた。

これは、相手に応じた文字の大きさや濃さを意識した姿であると捉えている。

他にも、個人の変容について紹介する。A児は、交流前に、地域の高齢者との交流を行ったことがなく、「関わりたいとあまり思わない」「どうやって話したら良いか分からない」と4月の段階で教師に話をしていた。しかし、交流活動を通し、高齢者との交流活動を行ったこと、活動の後には、自分の成長や、新たに学んだこと、相手の気持ちに触れて思ったことを振り返っていったことで、徐々に変容が見られてきた。高齢者のことについて関心をあまり示していなかったA児が、2学期末には、高齢者に対して「自分たちのゲームで楽しんできて、笑顔でうれしかった」「4年生になってもまた交流に参加したい」という思いを発表した。これは、交流を通して、気持ちが通じ合った瞬間を実感したことが変容を促したのではないかと感じている。うまく話せないと思っていた自分が自然と話せ、その言葉が相手に伝わったことが自信になり、次年度への意欲へもつながっていったと考える。



4 課題や今後の展望

昨年度から継続して行っている活動であり、4年生としては2年目となる。その中でも、相手の立場に立つことの大切さや地域との関りを通して、地域への愛着をもつことができる活動となったのではないかと感じた。来年度も、継続して活動を行っていきたいと考えている。

また、学校として複式学級の特性を生かした活動になるように、単元構想段階から時間をかけて実践・反省まで行っていきたい。

ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立吉田小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5・6	総合	吉田の町おこし隊	(株)たなべたたらの里、地域の方 交流センター、総合センター
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の見学や地域の方との交流を通して吉田の町の良さや課題を見つける。 ・ 吉田町のために自分達ができることを考え、協力して実行することができる。 	

1 取組の概要

- 1) 日常生活を振り返ったり、町の見学や地域の方との交流（炭焼き体験等）を行ったりしながらふるさと吉田の良さや課題を見つける。
- 2) 分かったことや考えたことについて、新聞にまとめたり、学習発表会で発表したりする。また、吉田の観光パンフレットを作成し、地域に発信する。
- 3) 吉田の町のためにできることを考え、地域の方と協力して実行する。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- 1) 地域のよさや課題を見つける場の設定
 普段生活している地域を改めて見学したり、地域の方と交流をしたりして地域の課題に目を向け、課題を解決しようとする態度が育つようにする。
- 2) 学習内容を発表する場の設定
 学習発表会で自分達の見つけた町のよさについて発表したり、ななかまどフェスタで地域の方と一緒にした炭焼き体験にまつわるクイズを出したり炭の販売をしたりすることで、ふるさとへの愛着や誇りがもてるようにする。
- 3) 考え計画したことを実行する場の設定
 地域の課題について考えたことから計画を立て、実践する活動を通して、ふるさとへの愛着をより高めるとともに、ふるさとのために何ができるかを考え実践する力を育てる。

（学力育成の視点から）

- 地域の方との交流の中で、吉田町に対する思いを聞く機会を設けたり、地域で昔から行われてきた産業を体験したりすることで、「もっと知りたい」「調べたい」という自主的な学びへの意欲の向上を図る。



- 交流や体験活動を通して発見した地域のよさや課題を、発信する相手（地域・保護者・下級生）を意識して分かりやすく伝える表現力を身に付けるために、タブレットを使って新聞にまとめたり、観光パンフレットを作成したりして学校・家庭・地域へと発信する。



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

○交流や体験活動を通して、地域の方のふるさとに対する思いや誇りに触れることで、ふるさとのために進んで課題を解決していこうとする意識が芽生えた。

○活動が続ける中で、吉田町のために「今の自分たちができること」は何なのかを児童一人一人が考え、意見を出し合うことができた。また、“地域のために”という主軸を大切に、計画したことを実行していくことができた。



（学力育成の視点から）

○地域講師に積極的に質問をするなど、主体的に調べ、考えようとする子どもの姿が見られた。

○グループ活動を通して、友達の視点や考え方を学び、自己のまとめや活動を実行する中で生かすことができた



4 課題や今後の展望

- ・児童はいろいろな思いをもち、様々な活動を提案していたが、校区が広く、予算の面から活動範囲が狭まってしまった。
- ・地域コーディネーターの繋がりにより、たくさんの活動を行うことができた。担任や担当だけの力では、ここまでの活動をすることができなかったと思われる。今後も充実したふるさと教育を行っていくために、地域講師について情報をまとめておく等、共有できるようにしておく必要性を感じている。
- ・ふるさとを愛する心情を育てるために、今後もできる範囲での活動内容を計画していきたい。

ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立田井小学校																							
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)																					
5・6	総合	吉田発 炭物語	<ul style="list-style-type: none"> ・炭焼経験がある地域の方 ・学校内（校庭）にある炭焼窯 																					
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・炭焼きを体験することによって、吉田の自然や文化を知り、それを伝え続けている人々の工夫や努力に気づく。 ・学習を通してふるさとを大切にしようとする態度を育てる。 																						
<p>1 取組の概要</p> <p>田井地区には、炭焼きを生業として暮らしていた方たちがおられ、家庭用やたたらに使用する炭を生産していた。小学校内にある炭窯を使い、炭焼き体験を行った。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 85%;">炭焼きについての事前学習</td> <td style="width: 10%; text-align: right;">10月</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>炭焼き体験 「窯たて」</td> <td style="text-align: right;">10月</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>炭焼き体験 「乾燥炊き・本炊き」</td> <td style="text-align: right;">10月</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>炭焼き体験 「炭出し・炭きり」</td> <td style="text-align: right;">11月</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>炭焼き風景の絵を描く（他教科との連携）</td> <td style="text-align: right;">11月</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>炭焼きポスターづくり・炭袋づくり・お礼状 （調べ学習・作品づくり・他教科との連携）</td> <td style="text-align: right;">11月～1月</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>地域の方へ炭と炭焼きポスターを贈る（自己発信）</td> <td style="text-align: right;">2月</td> </tr> </table> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <p>○ふるさとへの愛着をもつために、活動で意識したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炭焼きの体験や、炭焼きをしていた地域の方たちの話を聞き、地域にある暮らしの知恵や文化に触れ、地域産業を知ることを通してふるさとの良さを知ることができた。 ・地域講師の炭焼きの技を実際に見ることによって、良質な炭を焼くための工夫や技術を知ることができた。 ・自分たちが炭焼きについて発信したことによる、地域の方の反応を知ることによって、自尊感情を高め、地域や地域の方たちへの安心感をもつことができた。 <p>（学力育成の視点から）</p> <p>○学力育成をはかるために意識したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炭焼きが生活の中にあったことを学ぶことを通して、地域の文化を知り、学校で伝統的に受けつがれてきた炭焼き文化を引き継ぐ。 ・活動の中で積極的に行動したり、講師さんに質問や話しかけたりするなど自ら学ぼうとする自主的な態度を育む。 ・炭焼きポスター作りを通して情報をまとめ、分かりやすく発信する方法を学ぶ。 <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <p>○ふるさとへの愛着や誇りをもつことについて児童に見られた変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を重ねていくにつれ、自ら積極的に活動や地域講師と関わろうとする態度がみられた。 ・質問や感想などでは、ねらいにせまる質問を投げかけている児童や、炭焼き体験から地域の良さや、講師の方のもっている知恵や技術について素晴らしさを感じている様子が見られた。 				1	炭焼きについての事前学習	10月	2	炭焼き体験 「窯たて」	10月	3	炭焼き体験 「乾燥炊き・本炊き」	10月	4	炭焼き体験 「炭出し・炭きり」	11月	5	炭焼き風景の絵を描く（他教科との連携）	11月	6	炭焼きポスターづくり・炭袋づくり・お礼状 （調べ学習・作品づくり・他教科との連携）	11月～1月	7	地域の方へ炭と炭焼きポスターを贈る（自己発信）	2月
1	炭焼きについての事前学習	10月																						
2	炭焼き体験 「窯たて」	10月																						
3	炭焼き体験 「乾燥炊き・本炊き」	10月																						
4	炭焼き体験 「炭出し・炭きり」	11月																						
5	炭焼き風景の絵を描く（他教科との連携）	11月																						
6	炭焼きポスターづくり・炭袋づくり・お礼状 （調べ学習・作品づくり・他教科との連携）	11月～1月																						
7	地域の方へ炭と炭焼きポスターを贈る（自己発信）	2月																						

(学力育成の視点から)

○学力育成に関する児童の変容



- ・ポスターにまとめる学習を通して書きたいことを整理すること、必要な情報を探し出すこと、相手に伝わる文章にすることなど、児童に情報をまとめる力が付いた。

4 課題や今後の展望

- ・本来、炭焼きは冬に行われているものだが、学校行事と組み合わせたり年度内での学習を充実させたりするためにも、前倒して行っている。今年度は10月からだったが、後半タイトなスケジュールになった。実施期間について、年度当初に講師の方と話し合い、計画を検討したい。
- ・炭窯の老朽化が進んでおり、今年度も修繕を行った。今後の継続を考えて適宜修繕をしていく必要がある。



ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立掛合小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	生活	掛合町たんけん	交流センター・掛合分校・郵便局・田部竹下酒造・掛合建具センター・白石畳店・交番・掛合保育所・ひだまり館
ねらい		地域の様々な場所を見学したり交流したりする活動を通して、地域の人やものの良さを見つけることができる	
<p>1 取組の概要</p> <p>(1) 地域の「行ってみたいところ」を話し合う。</p> <p>(2) 実際にその場所に出かけ、「もの・こと」について、詳しい方に直接お話を聞いたり、体験したりする。</p> <p>(3) 見学から分かったことや地域の方の思いを本にまとめてみる。</p> <p>(4) 地域の方から学んだことや感謝の気持ちを手紙で伝える。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」を、どのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>○その場所に行って、そこに関わる「ひと」から話を聞いたり交流したりすることで、地域の「もの」や「こと」への興味や関心を高めるようにした。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>○見学に行って終わりではなく、学習をふりかえり、分かったことを文章や絵でまとめたり、地域の方への感謝の気持ちを手紙で伝えたりした。また、本にまとめたりした。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等) (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>○地域の方へあいさつを進んでする姿がみられ、ふるさと掛合を身近に感じるようになった。また、ふるさとへの愛着が生まれた。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>○自分たちで知りたいことを話し合ったり、学習したことをクラスの友だちと伝え合ったりなど、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。</p> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>来年度も引き続き、地域の教育資源である「ひと・もの・こと」を有効活用し、掛合町全体の町たんけんを行っていく。今後は、児童が学習し、まとめたことを学級内だけではなく、地域の方に向けて発表するなど、地域との相互のかかわりを増やすことを考えていきたい。</p>			
			
			

ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立大東中学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合的な学習	雲南市探究学習	地域住民 雲南市役所職員
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・雲南市の自然・文化・伝統などについて知識を深め、調べたことをまとめ学級や学年で発表する。 ・雲南市の良さを発見し、ふるさとを誇りに思い愛する心を育てる。 	
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 雲南市クイズにより、雲南市の「ひと」「もの」「こと」に興味を持つ。 ② 雲南市の「ひと」「もの」「こと」からテーマを選び、課題を設定し、図書やパンフレット、インターネットなどを使って調べる。 ③ 地域に出かけ、地域講師に直接話を聞いたり質問したりしてさらに詳しく学ぶ。 ④ 集めた情報を整理して、雲南市の「ひと」「もの」「こと」を紹介する発表資料を各自で作成し、各学級や1年生全体に自らの学びやふるさとの良さを発表する。 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p style="margin-left: 20px;">(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各自が設定したテーマについて、豊富な知識をもっている人や熱意を持って伝統を守っている人の話を聞き、地域の素晴らしさに誇りをもつとともに、地域の宝を守っていこうとする意識や態度を育てる。 ○ 実際に地域に出かけて現地を見て回ったり触れたりする活動を通して、地域の良さに改めて気づき、他にはないこの地域を愛する心を育てる。 <p style="margin-left: 20px;">(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域講師を迎えて直接話を聞いたり、資料を調べる過程で疑問に思ったことに答えてもらった中、課題解決のための手がかりを掴む。 ○ 探究学習を進める手順を学ぶとともに、情報の集め方や記録の仕方、情報を整理してまとめる力など、タブレットPCを適切に使用し、情報活用能力を身につける。 ○ 相手を意識してわかりやすく伝える、表現力を身につける。 <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</p> <p style="margin-left: 20px;">(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでは小学校区内、大東町内にとどまっていた「ふるさと」への視点が雲南市全体へと広がり、雲南市の「ひと」「もの」「こと」に関心を持って学ぶことができた。 ○ 雲南市で働いている人と直接関わることで、熱意を感じる事ができた。 ○ 雲南市の「ひと」「もの」「こと」の価値や意義、ふるさとの文化や歴史、豊かな自然を守るための地域の人々の努力についても知り、自分たちはどのように関わっていくべきか、進んで考えることができた。 ○ 雲南市には、自分たちがまだ知らない地域の良さがあることがわかり、雲南市を誇りに思う気持ちが強くなった。 <p style="margin-left: 20px;">(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 色んな資料を基に集めた情報、一連の学習を通して気づいたことや考えたことなどをもとに、各自が学習用タブレットPCを活用して発表資料にまとめ、学級発表会と学年発表会を行って情報発信をした。また、級友の発表を聞くことで、新たな発見をしたり、自らの学習を深めたりした。 			

4 課題や今後の展望

- 校外学習の実施について、時期や行き先も含め、方法と手段を検討すること。
- 地域資源についての情報の集め方を工夫すること。
- 学習用タブレットPCの効果的な活用方法を考えて実践すること。



ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立加茂中学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な学習 の時間	3年間のまとめ MSU発信	3年間に会った ひと・もの・こと
ねらい		3年間の学習から得た雲南のすばらしさを、言語化して発信する。	

1 取組の概要

- ① 3年間の総合的な学習の時間の活動を振り返る。
- ② 「雲南のすばらしさ」を具体的に挙げながら発表資料にまとめる。
- ③ まとめを発表し、交流する。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

生徒それぞれが、見て、聞いて、体験した雲南市のすばらしさについて、自らの思いや感じたことを「My Special Unnan (略してMSU)」と名付け、総合的な学習の時間を「MSU (結くむす) タイム」として、自分と地域、自分と将来、自分と社会、雲南を知る自分と雲南を知らない人を結ぶ時間と考えた。特に雲南を知らない人に、雲南のすばらしさを伝えることを3年間の最終目標として示し、活動への意欲づけとした。

(学力育成の視点から)

自分なりの「MSU」を言語化し、他者に分かりやすく伝えるために情報を整理・分析し、表現する力の育成を目指した。

3 児童・生徒に見られた変容 (どのような力が身に付いたか等)

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

3年間の活動を振り返る中で、ふるさと雲南をもう一度見直し、その「よさ」に気づくことができた。

(学力育成の視点から)

他者に分かりやすく伝えるための資料を、レイアウトなどを工夫して作成できた。

4 課題や今後の展望

MSU動画が作成できると面白いと思う。今後そういう方向性も検討できるとよい。



ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立木次中学校		
学 年	主な教科等	主に関わる单元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合的な学習 の時間	地域（ふるさと）探訪	(ひと) 地域コーディネーター、地域 ボランティア、見学施設の職員 (こと) 見学施設
ねらい		雲南市内の各方面の専門家から、直接話を聞いたり、施設を見学したりすることで、雲南市についての理解を深め、雲南市の魅力の再発見や地域貢献の気持ちにつなげる。	
<p>1 取組の概要</p> <p>「雲南市のことを知る、考える」</p> <p>(1) 映画『うん、何?』の鑑賞をきっかけとし、地域学習を進める足がかりとする。</p> <p>(2) 映画に描かれている雲南地区の歴史、文化等を取り上げ、地域や社会に目を向ける。</p> <p>(3) 地域探訪を<産業コース><歴史コース><おろちコース><たたらコース>の4グループに分け、訪問する。</p> <p>(4) 直接専門家から話を聞いたり、施設を見学したりする。</p> <p>(5) 各自で訪問してわかったことをまとめ、展示発表する。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が親しんできた「雲南市」を学習の対象として、地域の方や施設の方と関わることで、興味や関心を持ち、学習に取り組むことをねらう。 ・地域の魅力を自分たちの目で再発見したり、考察したりすることで、地域への愛着を深める。 ・地域への愛着や良さの発見だけでなく、雲南市の地域課題について考えるきっかけとする。 <p>→2年次の「雲南市の未来を考える」へつなげる。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと雲南」にある歴史や文化、それらを守る人々の思いに触れることにより、自ら課題を発見し、主体的に解決していこうとする資質・能力を育てる。 ・地域の良いところや誇れる魅力を知り、考察することにより、地域への愛着を育む。 ・地域の方たちとの対話を通じた学習により、課題解決に向けて、自主的な学びへの意欲を高める。 <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲南市内の各方面の専門家から、直接話を聞いたり、施設を見学したりすることで、雲南市についての理解が深まり、雲南市の魅力の再発見や地域貢献への気持ちが強まった。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方たちのお話、施設の見学を通して育まれた興味や疑問について、グループで対話を深めることで「課題解決」の方法を身につけるとともに、ふるさとのために進んで課題解決に取り組もうとする意欲が高まった。 			

4 課題や今後の展望

雲南市の良さと課題を知ることで、2年次の「雲南市の未来を考える」活動につなげていく。



ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立三刀屋中学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な学習 の時間	三中ハッピープロジェクト ～持続可能な地域社会のために 行動しよう～	地域の職場の方々や保護者等
ねらい		持続可能な地域社会のために、地域の方の助言を得ながら、学級の仲間との協働によって貢献策の実践を目指すことを通して、地域の一員として積極的に地域社会に参画しようという態度を身につける。	
<p>1 取組の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域の課題を考え、各グループで取り組む課題を決定する。 2) 地域貢献活動の内容を考える。 3) 地域の職場の方等の助言を受けながら、自分たちの貢献策を練り上げ、発表する。 4) 地域貢献活動を実践する。 5) 2年生に向けて今年度の取組を発表し、個人・グループで自分たちの学びを振り返る。 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとのために自分たちができることを具体的に考え実践する場の設定 これまで様々な形で学びを提供していただいた地域に対して、実際に自分たちが行動し地域の方々に喜んでもらう体験を通して持続可能な地域にしていくための実践力を育てる。 ・地域貢献活動について地域の方との協働を行う場の設定 地域のために尽力されているの方々や職場体験学習でお世話になる地域の職場の方との協働を通して、地域のよさを守る工夫や努力を実感し、地域への貢献意欲を高める。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献活動を通して、協働性の向上を目指す。 地域貢献活動を進める過程において、地域の方々や学級の仲間たちとの協働的な学びを通して、個人および集団の考えを深めていく力を高める。 ・地域貢献活動を通して、課題対応能力を高める。 地域貢献活動を進める上で必要な情報を収集するとともに見通しをもって計画を立て、実施に向け調整をしていく力を高める。 ・地域貢献活動を通して、表現力を高める。 地域貢献活動を進める過程において、地域の方々の助言をもらったり学級の仲間たちとの対話を繰り返したりすることで、自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝える力を育てる。 <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献活動を通して、改めて地域のよさや課題に気づき、自分たちが地域に貢献する意義を知り、地域社会に積極的に参画していこうという気持ちをもつ生徒が増えた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との対話や仲間との協働の機会を通して、よりよい考えを目指し深める力がついたという生徒が多くいた。 ・考えを実践化する上で、様々な課題に対する対応を考えることで、調整力が高まった生徒が増えた。 			

4 課題や今後の展望

- この学習を今後継続していく上での一番の大きな課題は、限られた「総合的な学習の時間」の中で、この学習の時数をどう確保していくかである。
- 今年度は職場体験学習を、地域の課題解決のためのアイデアを発見したりやアドバイスをもらったりする場と位置づけたが、職場の方の中には、そのことに戸惑われる職場もあった。



【中間発表会】



【観光協会訪問】

令和7年度 ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立吉田中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全学年	総合的な学習	吉田の芸能を体験しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人(子ども神楽の小田和子さん、勝部康弘さん、大島文雄さん、火焰太鼓の古居哲夫さん、影山和美さん) ・舞手の衣装、楽器(深野神楽)や和太鼓(火焰太鼓) ・地域の方に教えてもらって、神楽を舞ったり、火焰太鼓を演奏したりした。
	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりが課題を見つけ、方法を工夫しながら、その課題を追究し、解決していく。 ○地域の「ひと」・地域にある「もの」・地域にはぐくまれた「こと」と関わりながら、ふるさと「吉田」をあらためて知り、ふるさとに愛着と誇りをもつ。 ○地域の活動から学び、考えたことを発表し、感謝の気持ちや地域のために貢献しようとする思いをもつ。 	
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設講座名 ①火焰太鼓 ②深野神楽 ・班編制 受講希望調査の結果により、全校生徒の縦割り班とした。 ①火焰太鼓 8名(2年6名、3年2名) ②深野神楽 6名(1年4名、3年2名) ・活動時間 2時間×5回(全10時間) 文化祭のリハーサルと本番での発表 ・活動内容 ①火焰太鼓 吉田地区の和太鼓を練習し、文化祭で発表した。 吉田の方が作曲された「清流」を演奏した。 ②深野神楽 田井地区の深野神楽を練習し、文化祭で発表した。 今年度は演目「山神祭」を演舞した。 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ふるさと「吉田」をあらためて知るために、伝統芸能である「深野神楽」や「火焰太鼓」の練習に取り組んだ。 2) 地域貢献への意欲を高めるために、練習した「深野神楽」や「火焰太鼓」を文化祭で地域の方や家族に向けて発表した。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) よりよい発表に向けて、伝統文化に携わる地域講師の指導を生かして課題設定や振り返りを行った。 2) 相手意識・目的意識をもった表現力の向上に向けて、文化祭での発表の場を設けた。 <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等) (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 10時間の練習を通して地域の伝統文化について理解を深め、ふるさと「吉田」への愛着や誇りが高めることができた。 2) 文化祭での発表では保護者や地域の人からの高評価を受け、伝統文化を引き継いでいくことの大切さを実感し、地域貢献への意欲を高めることができた。 3) 地域の講師から学ぶことによって、自分のふるさとには素晴らしい方々がいることに誇りを持ち、また感謝の気持ちをもつことができた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文化祭でのよりよい発表に向けて地域講師の指導を生かして、伝統文化の所作や技術を磨くことができた。 			

2) 文化祭ではそれぞれの講座とも自信をもって自分達の練習の成果を発表することができ、表現力の向上につながった。

4 課題や今後の展望

- 1) 生徒数の減少に伴って、「火焰太鼓」「深野神楽」の2講座を開設することが難しくなっている。吉田地区、田井地区に伝わる伝統芸能に触れる機会は大変貴重かつ継承していきたいと生徒の声も聞かれるが、2講座を続けていくのが困難な場合は、それぞれを隔年で行うなど対応を考えていく必要がある。
- 2) 中学校の行事である文化祭の中で、発表の場を設けているが、地域講師だけでなく地域の方とも連携し、地域の行事との連携を図っていけるよう円滑に協議しながら継続していきたい



ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立掛合中学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源（ひと・もの・こと）
3	総合	町おこしイベント 「つながれ！KAKEYA! ～笑顔の花を咲かせよう～」	<ul style="list-style-type: none"> ・雲南市スペシャルチャレンジ事業の活用 ・掛合町内協力事業所、施設 【飯石森林組合・白石製畳・うすの会・好老センター・えがおの里・社会福祉法人 仁寿会（山光園・むくげ）・食生活改善推進委員・雲南市健康推進課・掛合交流センター・掛合小学校・掛合ショッピングセンター コア・掛合にぎやかし隊】 ・町外事業所【Wood Party（大東町）・めぐる屋（大田市）】
ねらい		○地域の魅力や課題を理解し、自分たちがめざす掛合町の姿に近づけるために、これまでの探究学習の成果を生かして町おこしイベントを企画・運営する。	
<p>1 取組の概要</p> <p>①町おこしイベントの活動資金を得るため、雲南市主催の「スペシャルチャレンジ事業」ジュニア部門に応募し、1,2年時の学習を踏まえ、町おこしイベントの事業計画書を作成し、提出するとともに、審査会においてプレゼン発表を行った。</p> <p>②①で得た資金をもとに、イベント開催に向けた準備を行った。</p> <p>③4つの班が体験ブースを開設して町おこしイベントを実施した。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <p>○地域内・地域外の「ひと・もの・こと」を活かした町おこしイベントの企画を考え、実施した。</p> <p>1,2年時に出会った地域内・地域外の「ひと・もの・こと」を活かした町おこしイベントを企画・運営することで、改めて今までの学習や、地元の良さ、課題、地域のために活動する人々の工夫や思いを見つめ直す機会とした。</p> <p>（学力育成の視点から）</p> <p>○1,2年時の学習を踏まえた、「スペシャルチャレンジ事業」ジュニア部門の事業計画書を作成し、審査会でプレゼン発表をした。</p> <p>町おこしイベントの目的や具体的な内容、必要経費やアピールポイント等を、今までの学習とのつながりを意識しながら、生徒たち自身で考え、作成した。また、プレゼン発表の資料も生徒たち自身で工夫しながら作成し、町おこしイベントの意義についての思いを深めさせるとともに、審査員の方に自分たちの考えを分かりやすく伝えることができたようにした。また、文化祭と町おこしイベントを同時開催することで、校内においても1,2年生に企画の意図を伝え、協力して実践するようになった。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</p> <p>（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <p>○町おこしイベント後の生徒の振り返りには、「地域の方が協力してくださり、地域の方の温かさ、地域の方に自分たちが支えられていることを感じた。」「挨拶などの小さなことでもいいから、地域のために自分にできることを実践していきたい。」といった内容のものがあり、生徒たちは地域貢献への意欲を高めていることが分かった。</p> <p>（学力育成の視点から）</p> <p>○町おこしイベント後の生徒の振り返りには、「先を見通しながら計画を立てて実行していくことの大切さがわかった。」「きちんと説明をすることで地域の方をはじめ、色々な人に協力してもらえた。」「どのような工夫をすれば来場者の方が楽しんでもらえるかを考えることができた。」など、先を見通して計画をする力や、相手を意識して物事を考える力がついたり生徒が実感していることが分かった。町内外の地域の方々と関わり、力を借りながら実施した町おこしイベントで、人とコミュニケーションを取ることの楽しさを実感し、生徒の成長に大きな影響を与えていることが分かった。</p>			

4 課題や今後の展望

○町おこしイベントの実施を含め、探究学習を通して得た成果と課題を校内で共有する。そのうえで、地域のもの、ひと、ことをどのように生かすかを考え、3年間の見通しをもち、生徒の気づきや実践意欲を大切にしながら学習を進めていきたい。

